

FIT野外研修

- 【タイトル】学名と共に覚える春の植物
- 【開催日】2018年4月17日（火曜日）
- 【開催場所】東京大学附属 小石川植物園
- 【実施概要】学名の基礎
- 【参加者数】13名
- 【報告者】小川和恵（27年）

【本文】講師にFIT会員 横山茂氏を迎えて、みどり萌える植物園を歩きながら「学名の基礎」についての講義が始まった。学名は世界共通のすべての生き物に付けられたラテン語表記による世界共通の学術公用語であること。種名は属名と種形容語（種小名）の二つで構成されている。この表し方を二名法といいリンネによって体系化された。

属名と種形容語の後ろに命名者も記載されるので、それによって、学名をつけた人が分かったりする。園内の珍しい植物や見慣れたものを実際に手にして講師の説明に聞き入りながら確認することが出来た。

科は新エングレー分類体系からAPG分類体系に変わっているように、科は変わることがあるが属はあまり変わらないので属で覚えたほうが分かりやすく、植物がより身近に感じる事が出来る。

今まで科を重要視して覚えることが多かったので目から鱗が落ちるように少し見方が変わった。学名以外の研修内容としては、托葉、低出葉、高出葉のことで托葉以外は初めて聞く言葉で植物の意外な知恵に驚かされた。

最後に講師から「学名の基礎を学ぶことは植物を知るうえで役に立ち、学ぶ楽しさが増します。」との言葉が印象的であった。

園内にはツクシスミレ、ハナヒョウタンボク、オオアマナ、ヒトツバダコ、ハンカチノキなど沢山の春の花々が見ごろであった。

終始曇り空の中、雨にもならず3時間弱の研修であったが中身の濃い時間であった。

道のりは遠いようだが少しずつ近づいて行きたいと思う。



オオアマナの絨毯



オオバヤシャブシの托葉



ハナズオウの幹生花



ハナヒョウタンボク



ハンカチノキの花と白い苞



学名の説明に聞き入る参加者